



病院所在の武蔵村山市内の農家がかつて作られたミキノクチお神酒の口（おみきのくち）は、お神酒徳利（おみきとっくり）の口にはし、神棚に供える縁起物です。繊細な形状は、竹などの材料を小刀で細かく削いて作られます。武蔵村山市歴史民俗資料館にて取材



新春を迎えて

理事長 中里 厚

No.26 (平成25年)
 社会福祉法人 鶴風会
 東京小児療育病院 園
 みどり愛育園
 西多摩療育支援センター
 後援会
 一連絡先一
 東京都武蔵村山市学園4-10-1
 電話042-561-2521(代表) 予208-0011
 東京小児療育病院内
 Eメール terh@kakufuh.com

理念

私達は
**障害児者の生命機能の維持
 向上と生活援助のための誠実に
 積極的に取り組み障害児者と
 その家族を支援します**

1頁	新春を迎えて
2頁	責任と信頼 五〇周年記念事業募金趣意書
3頁	「奇跡の松」その③
4頁	肢体不自由児施設施設長・事務長会議 第三十九回東日本重症心身障害児施設協議会に参加して 武蔵村山市駅伝大会で走る
5頁	西二病棟・東二病棟お色直し みどり祭りがありました
6頁	多摩小児神経懇話会 準備優勝 後援会より オルフエの会 バザー終了報告
7頁	
8頁	ご寄付者名簿

新しい年を皆様如何お迎えでしょうか？

昨年には皆様方の暖かな御支援を戴き、当施設も何とか無事に越冬できました事を心より御礼申し上げます。

大震災から早二年を迎えようとしておりますが、しかし被災地や福島県では家族を亡くしたり、未だ我が家にも戻れない方達が多勢残されており心痛む日が続きます。鶴風会東京小児療育病院は昭和三十九年に創立され、来年は創立五十年を迎えます。昨年来、五十周年の記念事業に關しまして多くの方から心温まる御寄附を戴いております。改めて心より感謝いたし、御礼を申し上げます。

当施設では昨年に(一)病棟、事務棟など古い施設の耐震補強工事(二)病棟の壁の塗り替え、職員棟の整備などを行いました。今年は(一)災害時の自家発電装置の整備(二)古くなったベッドや車輦などの入替、インフラの整備などを行う予定です。しかし、いかにせん建築五十年の施設ですので、あちこちに機器や設備の思いがけないところがでてきて、予定外の経費の出費に悩まされております。将来に備えての建て替えや新築工事のための準備が、全く出来ていないのが当面の最大の悩みです。

話はかわりますが、昭和十一年に日本では有名な二・二

六事件が起こりました。軍の青年将校が起こしたクーデター未遂事件で、政府の要人が多数亡くなりました。現在私は杉並区の上荻に住んでいますが、近くには当時襲撃を受け亡くなられた斎藤實内大臣の御遺族がおられ、事件当時の遺品の数々は故郷の岩手県水沢市にある記念館に陳列されております。また私の往診先の上荻二丁目のお宅の隣に古い家があり、「ごなたのお住まいですか？」とお聴きた所、「二・二六事件で襲撃された渡辺錠太郎教育総監のお宅で、当時のままです」といわれました。このお宅も昨年取り壊されてしまいました。最近ベストセラーになっている「置かれた場所で咲きなさい」という本があります。著者のシスター渡辺和子さんは渡辺錠太郎教育総監のお嬢様(二女)で現在ノートルダム清心学園の理事長です。この本の中でも、当時父親と一緒に清心学園の理事長です。この本の中でも、当時父親と一緒に清心学園の理事長です。この本の中でも、当時父親と一緒に清心学園の理事長です。この本の中でも、当時父親と一緒に清心学園の理事長です。

私達の施設も五十年経ちます。この間多くの利用者さん、そして職員が様々な置かれた立場で粉骨砕身の努力と、忍耐を続けて花を咲かせて参りました。現在の施設が存続出来るのもこうした方達のお陰と心より感謝いたします。今後もしさらなる努力でもっと大輪の花を咲かせ、当施設が名実ともに日本一の障害者施設になるようにと思っております。皆様方のさらなる御協力を宜しくお願い申し上げます。

責任と信頼

東京小児療育病院院長 椎木俊秀

二〇一二年十二月十六日に第四十六回総選挙が行われ、民主党が二百三十議席から五十七議席に後退し惨敗、自民党が二百九十四議席を獲得し圧勝という結果に終わりました。今回は選挙前に多くの政党が離合集散を繰り返して、結成されて数日で解散した党もあれば、選挙後に分裂した党もありました。相変わらず選挙のたびに政党を渡り歩く人もいました。今回ほど政党の軽さが目立った選挙はなかったように思います。そもそも民主党が惨敗した最大の理由はマニフェストで公約したことを誠実に実行しなかったことでしたし、これだけ重要課題が山積しているにもかかわらず投票者が前回選挙から約一千万人も減ったことや無効票が多かったことなどは、政党政治に対する不信の増大を反映したものと思われます。われわれの前には東日本大震災の被災地の復興、原発問題、消費税、デフレ不況、財政危機、社会保障、子育て、教育、TPP、領土問題、環境破壊など幾多の大きな課題が突きつけられています。この危機的な時期にこれほどまでに政治に対する不信が増大しているということは極めて憂慮すべき事態だと思います。

お互いの意見に相違があるのは当然です。最終的に多数決で決めるのが民主主義のルールです。そういう意味では民主主義は

主義はどのような結論に到達したかという点より、むしろどのような過程を経て結論に到達したかを重視する考え方だと言えます。多くの難問を解決していくためには利害、主義・主張、価値観、文化・風俗・習慣など様々な違いを乗り越えて意思疎通を図りながら一致点を見出していかなくてはなりません。そのためには双方が言動に責任を持ち、約束したことは誠実に守る努力をしなければなりません。つまり責任と信頼が不可欠です。責任と信頼はコインの表裏のように切っても切れない関係にあるのです。

われわれの社会生活の多くは責任と信頼で成り立っています。無責任なことをすれば、会社ならすぐに顧客の信頼をなくし潰れてしまいますし、仕事も社会生活も円滑に進みません。われわれは責任を果たすために法令遵守を強く求められ、監視や監査で厳しくチェックされます。しかし肝心の政治家や政党はどのようなチェックがなかなか働きません。例えば一票の格差が大きく今の選挙区割りには違憲であるという最高裁の判決が出ていたにもかかわらず、何ら見直しをせず選挙に臨みました。「自助努力」、「官から民へ」と言いながら、年間総額三百億円を超す税金を政党助成金としてほとんどの政党が受け取っています。自分の党の経営ができなくて、国家の経営ができるの

でしょうか。それ以外にも数えればきりありません。

政治だけでなくマスコミの責任も問われています。マスコミは世論を形成する上で非常に大きな影響力を持っています。が、本当に真実を伝えていいるのか、公平な報道をしているのかという批判もあります。マスコミも責任と信頼が厳しく問われています。

しかし、最も大切なことは民主主義の社会においては、政治家や政党を育てるのはその国の国民だということです。現在の状況は、われわれ国民の政治的成熟度を反映したものであると思います。政治には期待できないと思っている国民は多く、選挙にもいかなる無関心層も増えていますが、誤った政治は暮らして健康を破壊するという点は多くの人が政治の負の期待として認めざるをえないでしょう。拱手傍観しては事態は悪くなるばかりです。

どのような思想・信条を持つと、どの政党に所属しようと、政治家の資格として責任と信頼で篩にかけ、それに合格した人だけを選挙で選んでいくことだと思えます。政党もそのような人を候補者にしないと篩にかけられる必要があります。われわれは、高い「授業料」を払いながら、そのことを学んでいる最中なのかもしれません。今年も参議院選挙もありますが、蓄えや収入が尽きて「授業料」が払えなくなる前に、そろそろ学びの成果を少しずつでも発揮する時期に来ているのではないのでしょうか。

社会福祉法人鶴風会

東京小児療育病院

五〇周年記念事業募金のお願い

- 1 募金の目的
 - 一、記念式典・祝賀会
 - 二、記念講演
 - 三、記念誌発行
 - 四、その他の記念事業
- 2 募金の対象者
- 3 職員及び当法人の事業活動への賛同者
- 4 募金の金額
 - 一口5千円（できれば二口以上でお願いします。）
- 5 募金の期間 平成二十四年七月一日～平成二十六年九月三十日
- 6 申込方法等
 - 申し込みをなさる方、又募金に関するお問い合わせについては左記にご連絡をお願いいたします。

東京小児療育病院内 社会福祉法人
鶴風会後援会事務局

〒二〇八〇〇〇一
東京都武蔵村山市学園 四一〇一
電話 〇四二一五六一一二五二二

〔沿革〕

昭和三十七年 社会福祉法人「鶴風会」設立
昭和三十九年 東京小児療育病院
昭和四十五年 重度心身障害児施設 開設
（肢体不自由施設）
昭和六十三年 重症心身障害児（者）
（みどり愛育園） 開設
（通所事業を開設）
平成 十六年 西多摩療育支援センター開設

「奇跡の松」その③

会長 五島 瑳智子

二〇一二年三月十一日の陸前高田市を襲った大津波に耐えて、一本だけ残ったあの奇跡の松のその後です。

江戸時代に防潮林として植えられた十萬本の松原は、この松を残して全て流出。

多くの人に希望を与えたその松も、二〇一一年の終わりには力尽きて、枯死と判断されました。

何とか残して欲しいと願っても、このままでは台風や落雷などで倒れる危険があるので、解体して防腐処理を施した後、復元して元の場所にモニメントとして設置されることになりました。

二〇一二年九月十二日、分割解体が行

われました。新聞に掲載された写真は、九分割の作業が開始され、高さ二十七米

の上部が切り離された時のものです。十二月六日に残りの切り株と根も掘り出して防腐処理をして保存すること。出来上がった木が元の場所に設置されるのは二〇一三年二月とか。

やがてその周囲に、「はぐくむ」の前身号（二十五号）で紹介したこの松の子孫が植えられ、次の世紀には松原となって私たちの子孫が眺めながら、津波のことを伝えていくでしょう。



奇跡の一本松の伐採作業の様子

肢体不自由児施設 施設長・事務長会議

総務部 佐藤 朋己

平成二十四年四月一日に障害者自立支援法及び児童福祉法が一部改正にされました。肢体不自由児施設という名称が法的には廃止になったことから、肢体不自由児施設を取り巻く環境というのはまさに大きな変革期を迎えています。

関東ブロックの肢体不自由児施設の施設長・事務長が一堂に会して施設のあり方について協議する「平成二十四年度関東甲信越静肢体不自由児施設施設長・事務長会議」が平成二十四年十一月十六日の二日間の日程で東京都北区にある「北とびあ」において開催されました。

今回の会議の共通テーマは、障害者自立支援法及び児童福祉法が一部改正にされたことにより「法改正への各施設における対応状況」となりました。

会議は、午前に民立民営の八施設で行われる民営部会と午後からの公立施設を合わせ、十五施設で行われる全体会の構成でした。

民営部会では、「人材確保対策」についての意見交換に最も熱が入りました。医師・看護師の不足は各施設でも共通して抱える問題であり、欠員の補充に非常勤職員の募集をかけても埋まらない状況から、各施設が医師・看護師の不足の

対策についての報告内容の質疑応答は、会議時間を大きく超えました。

全体会では、法改正施行による事業移行の状況について各施設から報告がありました。従来の肢体不自由児入所者は、各利用者ごとに重症心身障害の認定が行われることとなり、その認定状況が報酬に影響することから、各施設の取り組み状況及び東京都・県・区市町村・児童相談所の指導内容や対応について情報交換が行われ、各自自治体での指導内容や対応が統一されていないことに驚かされました。

今回の会議に出席したことで、数多くの情報や、新たな発見を得ることができました。肢体不自由児施設を取り巻く環境の変化によって、施設に求められる機能も大きく変わってきています。その変化に対応しながら、鶴風会の理念のもと、東京小児療育病院を充実させ利用者の方々のお役にたちたいと考えています。



第三十九回東日本重症心身障害児施設協議会に参加して

生活支援部長 柳 瀬 達 夫

去る平成二十四年十一月八日〜九日に、東北は岩手県盛岡にて開催された「東日本重症心身障害児施設協議会」に参加させていただきました。秋も終盤に差し加かる東北の地と思いい準備をしていったのですが、当日は時々小雨こそ降ったものの思いのほか寒くは感じませんでした。

さて協議会ですが、みちのく療育園施設長の伊東宗行先生の開会の挨拶ではじまり、まずは岩手医科大学医学部千田勝一先生の特別講演から、題は「周産期医療からみた重症心身障害児」でした。先生は、岩手医科大学医学部の教授で、新生児医療を専門としておられます。先生の講義では、新生児医療の戦後、急速な進展についての新生児医療の現場での貴重な報告、特に一九九〇年代以降、肺の未成熟な新生児に画期的な治療薬である人工サーファクタントによる補充療法により多くの命が救われるようになったこと。その結果、出生体重五〇〇グラム未満の新生児も救える率が高くなったが、そうした新生児の神経学的障害発生頻度も高くなっていることなどが確認されました。また、そうした療育の必要な重症心身障害児がNICUから次の受け入れ機関の選択肢や在宅へ移行した場合の体制作り

など、多くの課題が急務であると訴えておられました。

シンポジウムでは、東部療育センターの岩崎先生、長岡療育園の小西先生、島田療育センターはちおうじの小沢先生がパネリストとなり、NICUと重症心身障害児施設との連携の実例が紹介され、施設・医療機関としての受け入れ、在宅障害児とその家族の介護への在宅療育支援などその取り組み状況と役割が討議されました。この協議会に出席することで、小さく産まれてたまたま障害をもたれた子どもたちがNICUでの治療後に、どのように療育を受けて行けるか大きな課題だと改めて感じることができました。



盛岡城址公園の啄木歌碑

不来方のお城の草に寝ころびて

空に吸はれし十五の心

石川啄木

武蔵村山市駅伝大会で走る

西2病棟 看護師 千葉 真也

十二月の寒空の下、第四十回武蔵村山市民駅伝競走大会が開催された。

市内在住・在職の小学生から御高齢の方まで、全百二十九チームが参加した。当院からは、医師、看護師、生活支援員の混合チームが二チーム出場した。

駅伝のコースは、旧青梅街道を総合体育館から大曲交差点までを二往復、六区間に分けてのものであった。今大会は、スポーツ祭東京二〇一三開催及び二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京招致気運醸成事業として催されており、市を挙げての大会であったため、道路脇ののぼり旗や、観客への手旗の配布など、例年以上の盛り上がりを見せた。

参加者は、一般の部として市役所や郵便局の職員、市内の病院や消防署、学校の教員、地域の飲食店の店員など、職種は様々であった。また、女性の部、中学生の部、小学生の部などもあった。年齢や性別に関わらず大勢の参加があった。順位付けは部門ごとに分かれてはいるものの、競争自体は一斉スタートであったため、あつという間に大人を置き去りにしていく小中学生の姿や、長い距離を懸命に走る子どもや高齢者の姿など、参加する側、応援する側も大いに盛り上がる事ができた。



今回、駅伝大会に参加したことで、一人ひとり自分の任された区間を走り切らなければならぬという責任感と、走り切れたという達成感、またチームで一つのたすきを繋ぐことで生まれた団結力を、各々が感じられたのではないかと考える。そのようなチーム意識は、医療の現場でもとても重要なものである。それぞれの役割を一人一人が全力で果たし、一つのことを成し遂げる。その楽しさ、素晴らしさを再認識した一日であった。

西二病棟・東二病棟お色直し

西二病棟看護係長 森 栢 直 美

「広く感じますね。」

「病棟がさらに明るい感じになりましたね。かわいらしい。」

面会にこられた利用者様や短期入所病棟にみえたご家族から、明るい声が交わされます。七月から壁紙工事・扉の塗装工事が開始し、その後に床の剥離清掃が行われました。

病棟で生活しながらの工事であったため、入念な部屋移動計画を立てて調整を行いました。作業で発生する臭いなどの影響を考え、利用者様はプレイルームでの宿泊を行うなど、大変ではありましたが、利用者様やご家族の協力もあり無事に工事を終えることができました。

工事のための環境から普段の環境に戻り、ホッとした時、廊下に目をやると明るい色が見え飛び込んでくる。西二病棟はピンク色、東二病棟は黄色の病棟カラーがドアと腰壁に配色され、新しい白い壁紙が病棟を包みまします。さらに、床の剥離清掃が行われ、薄茶色だと思っていた床が、きれいなクリーム色であったことを知りました。

きれいな環境を前に、職員も



明るくなった病棟にて

利用者もご家族も笑顔が多くみられます。

これは、お色直し効果でしょうか。

環境を整えることで、いろいろな効果が期待できます。今回の工程で得られた環境を維持することはもちろん、その他の環境で整備すべき点について検討し、取り組む努力が必要であると考えます。

「良い環境」とは何かを常に考え、利用者もご家族も職員も、みんなが安心して過ごせる衛生的で快適な環境を整えていくために、まず自分ができることは何かを改めて考える機会となりました。

みどり祭りがありました

生活支援科長 小 谷 義 弘

去る九月三十日（日）、全体行事で地域交流を目的としたみどり祭りが開催されました。当日は、台風が接近しつつある不穏な天候でしたが、午前中は何とか外で予定していた和太鼓演奏（オープニング）、ふれあい動物園、各種模擬店、地域施設の出展などを行うことができました。

最近では、TVで取り上げられて有名になった深沢高校の和太鼓クラブの演奏は、たとえ耳が聞こえない障害者の方でもその振動が体を震わせ、楽しくなってしまうようなものでした。指導している先生とは二十年ほど前に和太鼓を招いた時からのお付き合いで、「生徒にみどり祭りを経験させたい。これが私たちの原点です」と、毎年のスケジュールに入れているそうで、今年も六十名を超える生徒さんに参加していただきました。

この演奏を合図に各種の催しがスタートして、利用者・家族の皆さん、地域の方々それぞれに遊んだり食べたりして楽しみましたが、徐々に雲行きが怪しくなり出店などは少し早めに終了して、午後からは雨用の設定に変更しました。午後の部は、メインイベントのふれあい大相撲です。訓練室の中に体育用マット・ビニールテープで仮の土俵を作り、職員

が行司に扮して雰囲気盛り上がるなか、時津風部屋の元十両だった幕下力士や二百kgを超える三段目力士など計三名が入場し、ふれあい大相撲が開始されました。内容は、質問コーナー、利用者・ちびっ子との対戦、みどり祭りキャラクターとの対戦などでしたが、利用者との

対戦では、普段見たこともない障害児者をどう扱っているのかかわからず、戸惑いながらもサービスピス精神でいろいろな注文にこたえてくれる力士の姿が微笑ましくとても印象に残りました。また、イベント終了後には写真撮影のために各病棟を回っていただくなど、楽しいひと時を過ごすことができました。

こうして無事に今年もみどり祭りを終えることができましたが、この行事は、百人以上のボランティアや地域施設、ポスター掲示に協力していただいた店舗など、様々な方々に支えられています。大変ありがたいことと感謝の気持ちを表すとともに、この施設が地域に根ざした、開かれた施設として地域の方すべてに認知されるよう、各方面の皆さんにもご協力を仰ぎながら、今後も努力を続けていきたいと思えます。

多摩小児神経懇話会

医師 和田 恵子

二〇一二年十一月十七日土曜日第六十一回多摩小児神経懇話会が行われました。多摩小児神経懇話会は、多摩地域の小児神経に関わる医師らによる症例の検討会です。毎回、多くの質問や意見交換で盛り上がり、時間制限のある学会より、ちょっと怖いというのが初めての発表者の印象かと思っております。

今回の発表は七題、講演一題のプログラムでした。多くの興味深い症例の発表が行われ、当院からは、難波先生がラムルテオンとメラトニンとの比較、赤星先生がダウン症の急激退行について発表されました。どちらも、多くの質問があり、印象に残り今後の診療に役に立つ発表、たとと自負しています。また、桢中先生による「微小重力と筋萎縮」の講演は、広大な宇宙から顕微鏡の世界まで広い視点にたち研究成果を発表いただきました。内容の面白さと巧みな話術に引き込まれ有益なお話をお聞きできました。当院の看護師、臨床工学士、秘書達からおもしろかったと感想をいただきました。

「初めて、学会で桑原ホールを使いました。とても広くてきれいで良いですね。」と感想を多くいただきました。また、会場を移動せず、その場で懇親会ができたことも有難く、今回は特別に五島先生のお

お計らいもあり、お料理も手配して頂きましたので、遠方から参加された方も楽しんで下さいました。会の運営にいろいろご協力いただいた業者さん、病院関係者に深く感謝申し上げます。



「準優勝」

鶴風会野球部 石井 昌之

十月十九日（金）に東京都共済組合清瀬運動場にて、重症心身障害児（者）施設職員交流秋季野球大会が行われました。当日は、島田療育センター、秋津療育園、東大和療育センター、東京小児療育病院の四チームが集まりました。職場代表として十二名の選手と職場から十名を超え大応援団が駆け付けてくれました。選手・応援団は気持ちを一つにして闘いに望みました。

また今大会は、昨年来の大会終了後に、選手から大会の会長である島田療育支援センター山川常雄理事長へお願いしていた優勝トロフィーを準備して頂きました。各施設とも優勝トロフィーの記念すべき第一号に名乗りを上げようと、どの試合も熱戦が繰り広げられました。

試合結果として、初戦の秋津療育園とは投手戦の上に、何とか最終回二死から連打で一点を先制した点を、相手の裏の攻撃を守りきって一対〇で勝利しました。続いて島田療育センターとの優勝決定戦は、相手に先制された後、東京小児療育病院が一時は逆転しましたが、相手に再逆転を許すと試合の流れを引き戻せないままに三対五で敗戦しました。

大会終了後は、毎年のご厚意で秋津療育園内にて施設懇親会も開催しました。

会場では他施設の職員とも交流を深めました。わが選手達も二大会連続の準優勝には甘んじず、次の大会こそは優勝トロフィー獲得を目標にして取り組んでいきます。





社会福祉法人鶴風会 後援会だより

感謝

石北 壽子

平成二十六年に東京小児療育病院が創立五十年を迎えると知り、初代会長龍先生を始め先生方、職員の皆様の御努力、御苦労が目に見えております。さらにその奉仕の精神を継承され今日に至った五島瑳智子会長、中田厚理事長始め先生方、職員の皆様の必至の御努力のお蔭により高いレベル・機能を持つて社会に貢献出来る重症心身障害児童施設が運営されていきますことに、心より感謝申し上げます。

さて、私は小児科を開業し、五十年が経ちました。夢中で子供達の診療に明け暮れました。しかし、先輩の先生方、同学年の五島会長、二宮、小川理事が懸命に小児病院の運営に係わっていらつしやることは詳しく存じませんでした。申し訳なく思っております。そんな私ですが、県立養護学校（小中高一貫校で、自閉症やダウン症、発達障害の子供達のための施設です）で二十八年校医を務めさせていただきました。校舎・寄宿舎は明るく、機能よく、環境よく、地域の方々や普通学級との交流も始まりました。一步一步の前進でした。先生方はどなたも慈愛に満ち、子供達の疾患や体質、性格、家庭の様子まで総て把握した素晴らしい方々でした。健診でも、先生方のご協力もあり、子供達は安心した様子で診せてくれ

ました。健診を通して感じたことがあります。「今この子供達には親がいる。県や国からの補助もある。でも卒業したあと親に万一の事があつたら？県や国の補助制度が変わつてしまつたらどうする？・・・自立しかない。健康なら仕事も出来る。健康が第一だ。」こう考えた私は、肥満対策を始めました（当時、肥満度二十パーセント以上の子供が三十名もいました）。検査結果をもとに、生活習慣に関する面談を行ったところ、食生活の改善が大変難しいことと分かりました。そこで、家庭へのペーパー連絡を行ったところ、職を持つ母親も多く、難しいことも多かったのですが、改善の見られた子供もいました。やはり、家庭での対応が大切だということでした。丁度国も障害者への福祉問題に取り組み、厚労省や文科省も障害児教育に乗り出した頃だったと思います。私は二十八年間無事、楽しく過ごすことが出来ましたし、検査の費用も少ない出費で済みましたが、小児病院は、重症児が多いため、人件費率が高く厳しいものと聞いています。障害を抱えながら成長する子供達のために、政治や経済面の変化が小児病院運営の妨げとならぬよう、新しい政府には是非御配慮いただきたいと願っております。若い先生方に、この意義ある後援会の継承を是非お願いしたく存じます。



チャリティコンサート オルフェの会

平成二十四年十二月二日（日）グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール「北辰」に於いて後援会主催のチャリティコンサート「オルフェの会」が開催されました。第一部では、ご来賓を代表して炭山先生（東邦大学理事長）ご挨拶と鶴岡先生から鶴風会の施設の活動状況の報告があり、第二部のコンサートでは、由紀さおりさんと安田祥子さんのお二人から、懐かしい日本の歌やトルコ行進曲の演奏があり、最後に全員で「故郷」を歌い、盛会裡に終わりました。



平成24年度 チャリティーバザー終了報告

昨年十月二十八日、施設全面改築借入金返済と、新たな療育機器の充実を目的としたバザーを開催いたしました。当日はあいにくの雨でしたが、多くのお客様に足をお運び頂きまして、無事に開催することができました。また、会社・団体等並びに個人様から多くの御協賛をいただき、ご寄付を合わせ百八十万円を超える収益となりました。この収益金は、当初の目的にそつて借入金の返済に充てさせていただきます。経済情勢厳しいなか、ご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。

鶴風会後援会へ(寄付者)芳名

平成24年6月〜平成24年11月

名(五十音順・敬称略)

青木 悦・青木りう子・浅川 恭行
蘆立 かつ・足高 毅・足立 嘉子
阿部 雅章・阿部 正和・飯国紀一郎
飯国 弥生・飯国洋一郎・石川 至
石北 壽子・伊藤 元博・猪俣賢一郎
入江チヨ子・上野 洋子・植村より子
白井 潔子・白井登世子・内ヶ崎仁子
太田 宏樹・大山 みつ・岡田 研吉
小原 明・小原 桂子・小原 該一
小澤 翠・鹿島田忠史・柏崎 操
加藤 貞人・加藤 光子・加藤 葉子
金森 勝士・金親 正敏・金子 和夫
勝目 宏・鬼頭 秀明・木村 裕
木山 博夫・久保 修一・黒瀧 俊彰
桑原 利章・月花 亮・小柴 弘巳
小柴 裕子・小林 令明・坂井 香織
境 敏秀・先山 隆司・佐藤 誠
佐藤 重雄・佐藤 麗子・設楽 誠
志鳥眞理子・島野 光・清水 友里
杉原智恵子・杉本 寛子・鈴木カツ子
鈴木 茂・鈴木 秀明・須田百合子
炭山 朋子・炭山 嘉伸・高尾ツタミ
高月 誠・高槻 義夫・武居 正郎
竹本 照子・谷口 利江・谷野 徹
田原 久子・田宮 親・塚越 実
月本 一郎・月本 伸子・辻本公美子
土井 淑江・遠山 節・豊嶋 穆
長岡 貞雄・中川 和彦・中園 宏紀
中谷 尚登・中西 隆・長野 文子
中村 徹・並木 温・西沢 憲司
西宮 常代・野上和博・野村 直子
橋口 玲子・橋本 静子・蜂矢 正彦
蜂矢百合子・花岡 正智・花岡嘉奈子
馬場 建・早川 浩市・林 佳子
早原 千鶴・原田千鶴子・原田 則雄
原田裕美子・樋口志津子・藤島 和子

藤野 隆子・古谷 貞子・増田登志子
松原 龍弘・松山 潤一・丸山 和子
水野 孝子・水野 惇子・三宅 三三
向山 徳子・向山 和代・向山 秀樹
武者 良朗・村井 昌允・村川 公一
村川世津子・百瀬せつ子・森 克彦
森川 房子・盛川 洋一・森 紘子
森 紫珠子・安土 達夫・矢野 春雄
山崎 純一・山村 憲・横内 哲也
吉見 梓・桜蔭学園同窓会 晁桜会
日本女医会東京都支部

社会福祉法人鶴風会(寄付者)法人団体個人

平成24年6月〜平成24年11月

名(五十音順・敬称略)

阿部美代子・飯塚 育子・伊藤九一郎
上野 薫・海老原明子・大貫 淳
岡松 眞幸・加藤奈津子・神山 賢一
清水紀利子・高橋 孝彦・田中 淳子
橋詰 美佐・舟橋満寿子・松尾 賢二
松本 誓子・村田 陽子・面田 貞和
守田 洋・山谷 キヲ・吉川 芳登
渡邊 圭子・山田耕一郎
あきる野学園夏まつり実行委員会
NPO法人 わらべ
ステップ移送サービス
東京小児療育病院
みどり愛育園 父母会
(社)東京都信用組合協会

五十周年記念事業募金(寄付者)芳名

平成24年7月22日〜平成24年11月

名(五十音順・敬称略)

相沢 智子・青木 継稔・浅地 聡
浅見 薫子・朝山 裕・朝山 浩行
足高 毅・安達 久夫・足立 嘉子
阿部 雅章・阿部 正和・安部 良治

飯国紀一郎・飯国 弥生・飯田 真岐
飯村 誠・五十嵐千代子・池田 陽子
石井 暁彦・石井 昌之・石川 至
石崎 満・石田 哲朗・石野 清治
石原 良子・一林 繁・伊藤 文子
伊藤 まり・伊藤 元博・井上 和子
井上 昌光・井上 瑞穂・岩崎 直弥
植田 圭子・植田 桂子・内山 利満
梅田 正法・梅田 嘉明・漆畑 修
榎本 和子・榎本 仁志・江口 環禧
大江 容子・大島 剛・大隅美智子
大関 忍・大塚 慶子・岡本 則彦
小川 昭子・乙幡 和明・尾内 廸生
小畑 恵子・加藤無名子・加藤 葉子
金山 明子・金親 正敏・釜范 登志
川端 真美・絹笠 哲夫・木村 鈴代
久保 博・久保田子ズ子・久保田伸枝
倉根 理一・黒瀬 恒幸・黒田 光保
河野多鶴子・神山 悠子・小島 榮吉
小竹原安見・小竹原良雄・小谷 義広
児玉 芳子・小丹 恵子・小林純二郎
小林 寅喆・小林みゆき・小屋 二六
近藤 栄作・西藤 武美・齊藤 伸行
齋藤 登・齊藤 康子・佐伯 輝子
境 りえ・先山 隆司・佐々木徹郎
佐藤 和子・佐藤 重雄・佐藤 大祐
佐藤 朋己・佐藤 艶子・佐原 要
佐山 理絵・澤渡 美保・塩野 則次
塩野 久子・篠崎 智子・篠原 洋子
忍足美代子・渋谷 昌良・島津和貴男
清水 一輝・獅山富美子・白石 芳子
新谷 義克・末吉 実子・菅野 俊一
菅野 壽子・洲鎌久美子・杉 薫
杉内 愛・杉田 佳信・杉本 寛子
杉本 光以・鈴木カツ子・鈴木 信介
鈴木 達夫・鈴木 秀明・鈴木 康之
鈴木恵美子・須田百合子・炭山 嘉伸
相馬 潔・高木 廣文・高木 正人
高須 信美・高塚 純・宝住 紀恵
田口 崇史・武居 正郎・竹内美恵子
竹中希久夫・多胡 博雄・館野 昭彦

田中 富子・田辺 巖・田部 秀山
田宮 親・土屋 英子・堤 俊一郎
寺内 文敏・寺内 博美・豊嶋 穆
豊田 道子・豊田幸樹年・長尾 哲
中里 厚・中島 桂子・長田 幸枝
中西 隆・中野 敏江・中橋 知子
中村 映子・中村志津子・中村 集
中村 道子・中村みゆき・中村美和子
中村 豊・中村 陽子・並木 温
西井 華子・西宮 常代・二宮 文乃
能谷 正雄・野上和博・野口ケイ子
野口 隆敏・野沢 明子・野村 直子
野本 一臣・橋口 玲子・橋村 千秋
畑 靖子・花岡 正智・花岡嘉奈子
浜中知恵子・浜中 正晴・林 佳子
早原 千鶴・原田 孝・原田千鶴子
原田裕美子・平田 徹・平野 徹
平山玖美子・藤田 親代・藤田ひろ子
藤牧 賢治・藤原 幸子・舟橋満壽子
舩松 洋・星 北斗・星田 宏
細野 幸多・細野 稔彦・発地 美介
堀之内八千代・馬嶋 順子・増田 和人
松尾 利子・松島 正浩・松原 龍弘
松本 章・松本 誓子・松本 光
松山 家昌・松山 典子・丸山 征爾
三坂 直温・美島 利通・水上 淳子
水野 惇子・宮川千鶴子・宮島 良征
宮代 英吉・宮脇 浩紀・向山 徳子
村川 公一・村川世津子・村國 均
面田 眞和・森 克彦・諸井 孝
諸井 雅男・諸富 杏子・安土 達夫
八代 博子・柳田 淑・矢野 春雄
矢部登美子・山崎 圭子・山崎 純一
山本 温子・山本 昌彦・山森 綱江
湯浅 玲奈・横関 仁・横山 隆子
横山ちとせ・善方 淑子・吉澤 熙
吉田 勝彦・吉田 友英・吉田 宏重
吉田 廣通・吉野 邦夫・吉野友友香
楽満 礼子・柳才りーブ堂
柳幸和義肢研究所